



1人1台端末とクラウドで進む主体的・協働的な"教員の学び" Google Workspace for Education を活用した教員研修・授業研究

「1人1台端末が全国に普及し、子どもの学びはクラウドを日常的に活用する段階へと変化しています。一方で、教員の学びは変化しているでしょうか。Google Workspace for Education（以下、Google Workspace）などのクラウドツールが授業の基盤となっている今、教員の学びにおいてもクラウドを前提とした環境を整える必要があります。例えば教員も Chromebook を活用することで、場所や時間に縛られず、セキュリティも安全な環境下で働けますし、Google Workspace を活用することで、教員同士が協働しながら学びを深められるようになります」と山梨大学教育学部准教授の三井一希氏は言います。その具体的な方法について伺いました。



実践のポイント 1 Point

忙しくても手軽に学びが続くしくみ

教員が研修のときだけでなく、日常的に学べる環境をつくるのが大切であり、そのために Google Chat が有効だと三井氏は語ります。「授業の工夫や相談、気になるニュース記事など、教員が日々の気づきを共有し合う Chat スペースをつくりましょう。やりとりのハードルが低いので多くの教員が発信でき、Google スライドや動画

のコンテンツも共有できます。何より、忙しい教員でもスキマ時間に学びを得られるのが大きなメリットです。少人数で始めて、周りに『何か便利のことをやっているのかも』と思わせて参加者を増やしましょう。リアクション ボタンを活用したり、投稿にコメントを返したりと、『やり取りをしている』実感をもてる雰囲気をつくるのもよいでしょう」



日常的な情報共有を Chat で行うのは、手軽に始められる活用例の1つ

実践のポイント 2 Point

公開授業の準備を楽にして互いに学びを深める

教員研修とは別に、授業研究の質もクラウドで高められます。三井氏は特に、公開授業で Google ドキュメントと Google スプレッドシートを活用することを勧めます。「方法はシンプルで、授業者は指導案をドキュメントで作成し、スプレッドシート上で指導案を一覧化して共有するだけです。これだけで、参加者は共有された指導案から順に余裕をもって目を通して、授業からより多くの学び

を得られるようになります。また、参加者には授業前も授業中も、ドキュメント上へ意見や質問をどんどんコメントしてもらいましょう。授業者は授業前から指導案をブラッシュアップでき、参加者も他の教員の意見や質問からさまざまな気づきを得られます。準備の時間を最小限にし、授業者と参加者が互いに学びを深めることができるでしょう」



授業者と参加者がドキュメント上でコメントしあう様子

アドバイス Tips

子どもの学びを変えるには、まず教員の学びを変えるところから

「クラウド上で共同編集をしたり、Chat で議論をしたりすると、どのように学びがサポートされるか、どのように議論が起こるのか、クラウドを活用した学びのプロセスやメリットが実感できます。そうしてはじめて、『授業でも活用できそうだ』と、子どもの学びにおけるクラウドの価値に気づけるのです。教員の学びが変われば、子どもの学

びも変わります。ぜひ研修や日常的な業務、教員同士のコミュニケーションへと積極的にクラウドを取り入れてみてください。何から始めればよいかわからないという方向けに、Google Workspace の活用例をまとめたハンドブックをつくりました。すぐに校内研修や授業研究で実践できる事例ばかりですので、ぜひ試してみてください」



山梨大学 教育学部 准教授
三井 一希 氏

※2022 年 12 月取材



はじめよう!これからの教員の学び
Google for Education を活用した校内研修と授業研究
ハンドブックはこちらからダウンロード
https://goo.gle/TL_1pager

